

令和8年度第2回佐世保市総合計画審議会
会議要旨

【日 時】 令和8年9月1日（火） 15：30～17：00

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開 会

2. 企画部長挨拶

3. 議 題

（1）第1回人口減少市民会議の状況について（報告）

（2）次期総合計画基本構想（骨子案）について

4. 閉 会

○出席委員 18名

欠席委員 2名

【資料】

- ・資料1 次期総合計画における基本構想骨子案について
- ・資料2 令和8年度ウェルビーイングアンケートからのサマリー資料

会議要旨

1. 開 会

2. 企画部長挨拶

3. 議 題

(1) 第1回人口減少市民会議の状況について

- 会長より、審議会条例第7条の規定に基づき、第1回佐世保市人口減少対策市民会議にて進行を務めた株式会社L i q u i t o u s（リキタス）栗本氏（以下「事業者」と記載）の出席を求め、ご説明頂くことを提案。
- 参加する審議会委員にて承諾。

～事業者説明～

【委員】

取りまとめられたグループワークでの内容について、佐世保弁・方言による発言内容はどの程度正確に反映されているのか。

【事業者】

A Iによる音声文字起こし・分析ツールの精度について、感覚としては9割程度正確にとらえられている認識である。発話の趣旨（意見のポイント）を抽出して分析を行っているため、特に語尾など方言が出やすい部分についても、内容が誤認されたり大きな影響を受けたりすることは基本的にない。ただし非常に重要なご指摘であるため、今後のデータ精査においても引き続きしっかりと確認していきたい。

【委員】

今回の分析について、単にデータ分析だけであれば、A Iを活用する個人でも可能である。また、まちの課題はすべて密接に繋がっているため、「意見が多かったから重点的に考える」「少なかったから考慮しなくていい」というものではない。

現在、私自身も高校生の探究学習に携わっているが、データを集めて分析し課題を出すだけでは単なる「調べ物学習」にとどまってしまう。本来の探究とは、そこからアクションを起こし、内容を深めていくことである。

今回の会議について、データ分析の提示だけで終わり、アクションを起こさ

ないのであれば、市民は「声を届ければ行政が何かやってくれるかもしれない」と期待しているのに肩透かしを食らってしまう。データ分析後のアクションにどう繋げていくか、今後の展開についてお伺いしたい。

また、行政の考えや取組が市民にほとんど伝わっていないと感じる。今後は「させばイス」などを通じて市民の意見を集めるだけでなく、行政側の意図や思いを噛み砕いて市民へ浸透させていくような、双方向の動きを期待したい。

【事業者】

委員ご指摘のとおり、データを分析して提示するだけで終わりとは考えていない。重要なのは、ここで出た意見をどのように市の施策や具体的アクションへ繋げていくかである。

一方で、行政手続きや総合計画の検討プロセスはどうしても慎重にならざるを得ず、世の中や民間・AI技術の進歩スピードとの間にギャップが生じてしまうのが現状である。今後の市民会議やさせばイス上で寄せられる意見や声から、総合計画や各政策に紐づけて行政アクションへ落とし込むだけでなく、市民や民間企業が主体となったスピーディーなアクションを起こせるよう、そのサポートにしっかりと取り組んでいきたい。

【委員】

今回の取組は、2,000件を超えるさせばイス上の声と本日の市民会議での議論内容を上手く取りまとめた画期的な手法であると感じている。

会議後のさせばイス上でのアウトプットなどについても期待したい。

【委員】

本日の市民会議の取組は素晴らしいものだった。一方で、ワークの性質上、明るい話題や将来の話にフォーカスしがちである印象を受けた。

例えば、虐待や経済的困難、不登校などのセーフティネットや権利擁護の視点も、議論の中にしっかり織り込んでいく必要があると感じた。

【会長】

非常に大切なご指摘である。

ご提示いただいた視点についても、見落とすことなく、しっかりと議論を進めていきたい。

(2) 次期総合計画基本構想（骨子案）について

～事務局説明～

(本市の将来像・キャッチフレーズについて)

【委員】

他自治体の事例のように、「どのようなまちの状態を目指すのか」が伝わる言葉をキャッチフレーズに入れるべきである。

また、まちづくりにおける「主語は誰か」を明確にすることが重要であると考えており、市民全員が「自分もまちづくりに関わりたい」という自主性を引き出す表現にすると良いのではないかと。地元への愛着は「自分自身に関わること」から生まれるため、市民全員が何かに関わることのできる、そのきっかけとなるようなキャッチフレーズが望ましいと考える。

【委員】

行政主導の公約のような表現（「〇〇をします」）だと、市民側も受け身になってしまう。

「〇〇ができる」「〇〇になれる」といった市民主体の言い方にすることで、市民の自主性が生まれるのではないかと。

【委員】

全体的に少し抽象的でわかりづらい印象を受ける。市民会議での議論も踏まえつつ、より具体的に「どのようなまちを作りたいのか」を市民や企業に対して明確に示す計画にした方がわかりやすい。

【委員】

人口流出・転出超過という危機的な状況において、従来のものを踏襲するだけでは不十分である。

市民も驚くようなインパクトのある高い目標（例えば「日本一幸せを実感できる都市 佐世保」など）を掲げ、行政と市民が一丸となって取り組んでいく姿勢を見せるべきである。

【委員】

人口減少に伴い税収も限られる中、何に特化するか、どこに予算を重点投下するかが重要であると考えている。

例えば「子育て世代」など特定のターゲットや分野に特化して魅力を高めることで、移住者の増加や企業誘致に繋がり、結果として市全体の好循環を生み出すことができるのではないかと。

【委員】

他都市でも、「日本一〇〇」と謳い、現に一定の成果を出しているものがある。本市においても、このような状況下であるからこそ、より高く具体の目標を掲げることが重要なのではないか。

【委員】

高い目標を掲げることも確かに重要だが、人口流出に歯止めをかけることは容易ではない。人口減少下で必要な行政サービスを維持するために、公共施設の見直しやコスト削減を進めつつ、佐世保市内あるいは県北地域にてどのように経済の好循環を生み出すかをしっかり検討すべきである。

【委員】

若者の転出を無理に止めるのではなく、「一度外に出て新しい刺激をもらい、また戻ってきてもらう」という発想が大切なのではないか。選ばれるまち・戻ってきたくなるまちにするための方策を検討していくべきである。

【委員】

課題が多い中で重要となるのは「センターピン（最も本質的な課題）」に何を置くかである。これまでの委員の話を聞く中では、「人が集まるまち」が該当するのではないか。そのような軸を据え、住みやすさ、企業誘致、インバウンド、ワーケーションなどの具体的な施策を展開していくという構造が分かりやすいのではないか。

また、KPIを設定する意味をあらためて検討すべきであり、設定するだけでなく、どう評価するかも重要である。例えば、総人口にしても、交流人口などの他の項目も併せて分析・評価することで、実態に即したアプローチができるのではないか。ワーケーション等の様々な取組も行いつつ、日常的に佐世保にどのような方がどれくらいいるのか観測することが重要ではないか。

【委員】

佐世保市は「日本一若者の夢を後押しするまち」を掲げているが、行政も若者活躍に関する取組を推進し、地域においても若者を応援する企業が増えている。その点、まさに「若者」をセンターピンに据えることもよいのではないか。

また、定住人口だけでなく、一度市外へ出た若者も含めた「関係人口」を佐世保の人口としてポジティブに捉え、関係性を維持・拡大していく視点が重要

である。

(都市状態指標 (K G I ・ K P I) について)

【委員】

指標例として挙げられている「幸福度」「1人当たり市民所得」「総人口」の3つは非常にわかりやすい。特に「1人当たり市民所得」を市民の豊かさの指標とする考え方に賛成である。

一方で、「1人当たり市民所得」は、分母（人口）の変動や外部要因（物価高騰等）の影響を受けるため、数値の変化理由を分析する補助的な指標として、若年層の社会動態、平均の賃金、労働生産性、域内企業の付加価値、若者・女性の就業状況等を設定すべきではないか。

また、「総人口」においても、その数値と各政策の成果を紐づけるにはあまりにも離れているように感じる。上記指標だけではなく、20～30代の社会増減、転出理由、地元就職率、U I ターン率等を併せて分析すべきではないか。

最後に、「幸福度」についても、全体の数値の平均だけでなく、年代別や地域別でも指標を観測し、なぜそうなっているのか分析することが必要ではないか。

各指標について、その数値がどのように動いたのか、またなぜ動いたのか、市民に毎年分かりやすく説明する仕組みを検討してほしい。

【委員】

「1人当たり市民所得」の算出方法（納税者のみを対象とするか等）や世帯あたりの所得の捉え方については、精査が必要である。単に数値の高低を見るのではなく、前年度からどのように伸びたか、その要因は何かを評価・説明できるように精査してほしい。

【委員】

ウェルビーイングアンケートの回答者は40～50代が多く、20代は少ない。若年層が転出し高齢層の比重が高まる本市において、分母が変動する「1人あたり人口所得」だけでなく、「幸福度」も一見改善したように見えてしまう数値上のトリックが生じる可能性があるため、評価の際は注意が必要である。

【委員】

「幸福度」は個人の人生観にも関わるため、その数値の高低が必ずしも行政

による取組の成果と一致するものではないかもしれない。「暮らしの満足度」や「佐世保に住んでいて良かったか」という視点を観測することとし、特に若い世代にターゲットを絞って測定する手法も考えられるのではないか。

(基本理念・基本目標・佐世保らしさについて)

【委員】

人口減少対策や子育て・教育、関係人口・観光などの指標も大切だが、「佐世保らしさ」とは何かを軸にすることが重要である。

離島や海などの自然環境、歴史、文化、先人たちが築いてきた資産を再解釈し、何を残してどう活用していくのか、その軸が伝わる計画にしてほしい。

【委員】

若者にフォーカスすることも重要だが、安全・安心や防災、福祉といった暮らしの基盤もしっかりと整えておくことも大切でないか

4. 閉会

以上